

第 II 章 分野別計画編

I 安全・環境

基本施策 1 防災

◆現況と課題

○平成 23 (2011) 年 3 月に発生した東日本大震災を契機として、全国的に人々の防災意識が高まり、市民・企業・行政が連携し、防災対策を強化するための取組みが進められています。このような状況を踏まえ、切迫する南海トラフ沿いの巨大地震に備え、いかに被害を最小限に食い止めるのか、防災力・減災力の強化が全国共通の喫緊のまちづくりの課題となっています。

○昼間人口が多い小牧市では、災害時における帰宅困難者への支援が重要な課題のひとつになっています。

○~~外国からの武力攻撃や大規模テロ~~、新型インフルエンザをはじめとした全国的に急速な蔓延の恐れのある新感染症などに対する危機管理体制の強化が必要です。

◆基本施策の目的及び体系

地震や風水害などの災害が発生した場合でも、人的・物的な被害を最小限に止めることができる災害に強いまちをつくります。

基本施策 1 防災

展開方向 1 防災意識を高めます

展開方向 2 災害発生時に迅速に対応できる体制を強化します

◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
<u>災害による死者数</u> <u>1 年前と比較して災害に強いまちと思う市民の割合</u>	%	地震や風水害などの災害により市内で死亡した人の数 <u>「1 年前と比較して災害に強いまちと思う」と回答した市民の割合 (アンケート調査)</u>	●	●

◆基本施策の展開方向 1：防災意識を高めま

【目的】

○市民の防災意識を高め、市民一人ひとりが「自らの身の安全は自らが守る」「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚を強く持ち、地域の人々全員が災害に備えている、安全なまちづくりを進めます。

【手段】

- ①地域や学校など関係機関と連携して防災訓練や水防訓練を実施します。
- ②洪水ハザードマップ、地震防災マップや各種災害対応を1冊にまとめた小牧市版の総合防災ガイドブックを作成し配布するとともに、あらゆる機会を捉えて防災意識の啓発を行います。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
災害への備えをしている市民の割合	%	「普段から災害への備えをしている」と回答した市民の割合(アンケート調査)	●	●
避難所・避難場所を知っている市民の割合	%	「避難所・避難場所を知っている」と回答した市民の割合(アンケート調査)	●	●

◆基本施策の展開方向 2：災害発生時に迅速に対応できる体制を強化します

【目的】

○平時から災害発生時に迅速な初動活動や復旧活動が展開できる体制を強化します。

【手段】

- ①他市町村や民間事業者などの関係機関と災害時における相互応援協定の締結を推進します。
- ②小牧市防災アセスメント調査~~の改訂を行い~~を実施し、その被害想定に基づき地域防災計画を見直します。総合的な災害対策を推進します。
- ③~~武力攻撃や~~新型インフルエンザをはじめとした全国的に急速な蔓延の恐れのある新感染症などに対応するため、新型インフルエンザ等対策行動計画を策定します。危機管理体制の充実を図ります。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
小牧市と災害時応援協定を締結した市町村及び民間事業者の数	件	同左	●	●
初動マニュアル研修において、研修内容を理解した職員の数	人	同左	●	●

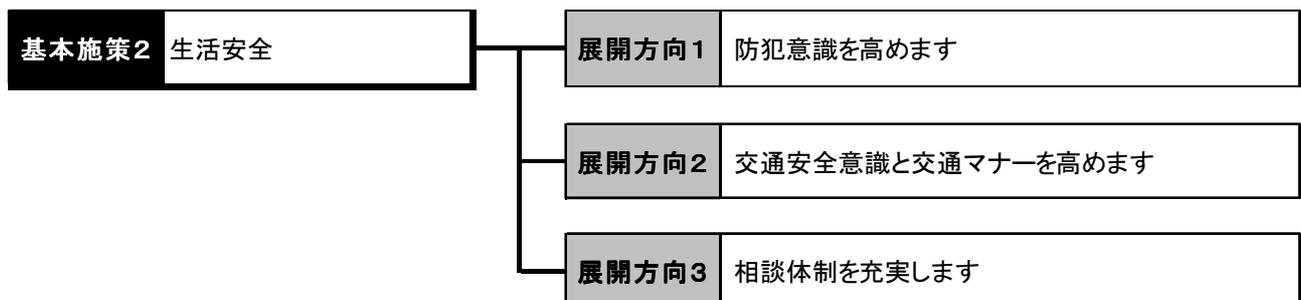
基本施策 2 生活安全

◆現況と課題

- 平成 19（2007）年以降、小牧市の刑法犯認知件数は、概ね減少傾向で推移しており、平成 24（2012）年では 2,290 件と平成 19（2007）年の 3,311 件と比べ 30.8%（1,021 件）減となっています。また、罪種別では、いずれの年も窃盗が全体の約 8 割弱を占めています。
- だれもがより安心して暮らせる地域社会の実現に向け、警察や地域をはじめとする関係機関との連携・協力のもと、地域ぐるみで支え合い・守り合う自主的な防犯活動をさらに積極的に進めるとともに、ハード面からも犯罪が発生しにくい環境を整える必要があります。
- 高齢化の進展とともに、今後増加すると見込まれる高齢者を中心とした交通弱者を事故から守るため、交通安全意識の醸成や交通安全施設の充実など、総合的な交通安全対策を強化する必要があります。
- 平成 24 年 7 月に「市民総合相談案内」（愛称：相談ほっとナビ）を生活交流課内に設置し、どこに相談に行ったらいいのかわからない市民に対して、相談内容に応じて市内のみならず外部の相談窓口も案内できる体制を開始しました。
- 高齢化の進展に伴い、今後ますます悪質商法による被害の拡大が大いに懸念されます。このため、消費生活に関する正しい知識の普及啓発や相談体制の充実などを進めていくことが必要です。

◆基本施策の目的及び体系

市民一人ひとりが犯罪、交通事故や消費者トラブルなどに巻き込まれないで安全で安心して暮らせるまちをつくります。



◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
犯罪発生率	件/千人	人口千人当たりの刑法犯認知件数 (小牧警察署資料)	●	●
交通事故発生率	件/千人	人口千人当たりの交通事故(人身)の 発生件数(小牧警察署資料)	●	●
相談満足度	%	相談に訪れた市民のうち「相談を 受け満足した」と回答した市民の 割合(アンケート調査)	●	●

◆基本施策の展開方向 1 : 防犯意識を高めます

【目的】

○防犯意識を高め、地域や各家庭、幼児から高齢者まで市民一人ひとりが身近な犯罪に対する備えや自主的な防犯活動を促進します。

【手段】

①警察、学校、事業者及び地域との連携・協力のもと、幼児から高齢者まで市民のライフステージ(年代)に応じた防犯教育を**実施推進**します。

②防犯啓発活動を推進し、犯罪企図者(犯罪を企てる者)の排除に努めます。

②③自主防犯パトロール団体の結成・育成及び活動の**促進を図り**を**支援**します。

②④玄関錠の交換やサッシへの防犯ガラスの取付け、センサーライトの設置など、自主的に防犯対策を講じた世帯に対する補助を行います。

④⑤区(自治会)や商店街など、地域で組織する団体等による防犯カメラ等の防犯設備の設置を**支援**します。~~促進を図ります。~~

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
防犯に対する備えをしている市民の割合	%	「普段から防犯に対する備えをしている」と回答した市民の割合(アンケート調査)	●	●
防犯教室の参加者数	人	警察と連携開催した防犯教室への参加者数	●	●

◆基本施策の展開方向 2 : 交通安全意識と交通マナーを高めます

【目的】

○交通安全意識を向上させ、歩行者、自動車、自転車がそれぞれの立場で交通マナーと交通ルールを守り、安全・安心して共存できる交通環境を確保します。

【手段】

- ①警察、交通安全協会との連携・協力のもと、「交通安全スリーS運動（Stop・Slow・Smart）」、「ライド&ライト運動（夕暮れ時の前照灯早めの点灯）」、「飲酒運転の撲滅」の広報啓発を実施します。
- ②警察、学校、事業者及び地域との連携・協力のもと、幼児から高齢者まで市民のライフステージ（年代）に応じた交通安全教育~~それぞれの年代に応じた交通安全教室~~を実施します。~~もて、交通ルールの遵守や反射材を活用した自己防衛など交通安全意識を高めるの向上を図るとともに、自転車、自動車等の運転者に「譲り合い運転の徹底」を図ります。~~

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
交通マナーを守って生活している市民の割合	%	「普段から交通マナーを守って生活している」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●
啓発事業参加者数	人	市が主催する啓発事業への参加者数	●	●

◆基本施策の展開方向 3：相談体制を充実します

【目的】

○市民が1人で不安や悩みを抱え込まずに、安心して暮らし続けられるよう適切にサポートします。

○市民の知識を高め、複雑化する消費者トラブルを未然に防ぎます。

【手段】

~~①ハード・ソフトの両面から、市民からの様々な相談に的確かつ迅速に対応できる体制を充実させます。~~

①「広報こまき」やホームページをはじめ、様々な広報媒体を活用し、各種相談窓口を周知します。

②各種相談窓口との連携を強化するとともに多様化する市民の相談内容に的確かつ迅速に対応できる体制を構築します。

③市民生活に役立つ消費者情報を提供するとともに消費生活相談員による講座を開催します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
相談によって不安が解消された市民の割合	%	相談に訪れた市民のうち、「相談によって不安が解消された」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●
相談件数	件	相談に訪れた市民の数	●	●

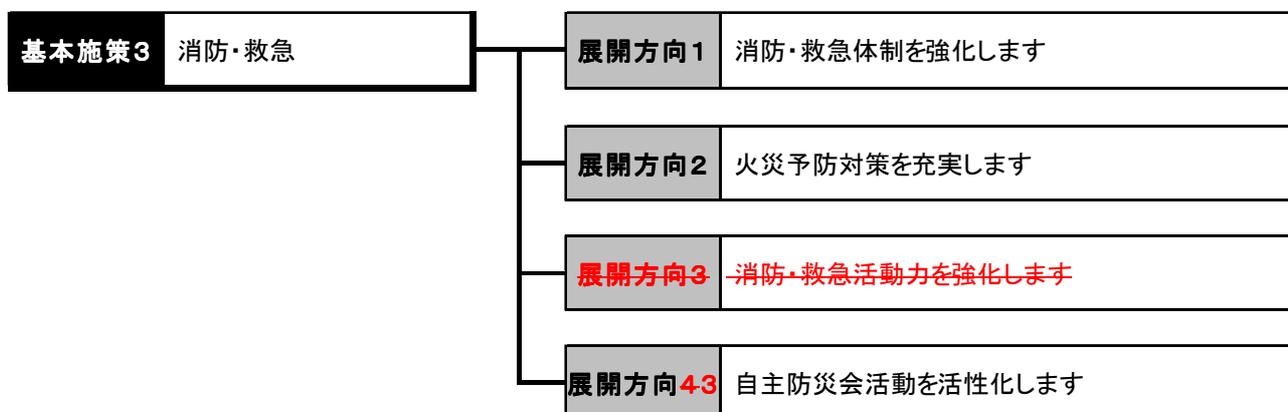
基本施策 3 消防・救急

◆現況と課題

- 今後の高齢化の進展を踏まえつつ、市民がより安心して暮らせる地域社会を実現するため、消防・救急体制を充実させる必要があります。
- 小牧市の平成 24 (2012) 年における救急件数 (6, 236 件) は、対平成 14 (2002) 年 (4, 815 件) 比で約 30% 増と大きく増加しています。今後、高齢化の進展に伴い、救急需要はさらに高まっていくと見込まれます。
- 住宅火災による死者数が急増したことを受け、消防法が改正され、小牧市でも新築住宅は平成 18 (2006) 年から、既存住宅は平成 20 (2008) 年から住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。しかし、平成 24 (2012) 年に市内で発生した住宅火災のうち、約 30% は住宅用火災警報器が未設置となっています。
- 市民一人ひとりが自ら備え、地域で共に助け合う、自助・共助による地域の防災体制づくりを普及促進するため、地域に根ざした防災活動の主体となる自主防災会の活性化を図る必要があります。

◆基本施策の目的及び体系

消防・救急体制及び防火安全対策を強化し、市民の生命、身体及び財産を災害や事故からしっかりと守ります。



◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
火災による死亡者数	人	同左 (暦年)	●	●
出火率	件/万人	人口 1 万人あたりの出火件数 火災件数 (1 月 1 日から 12 月末) ÷ 人口 (3 月 31 日の住民基本台帳) × 1 万人 (暦年)	●	●

救命率	%	救命された人の割合（暦年）が、愛知県 の平均値を上回る。	●	●
-----	---	---------------------------------	---	---

◆基本施策の展開方向 1：消防・救急体制を強化します

【目的】

~~迅速な消火活動を実践し、火災が発生した場合の被害を最小限にとどめます。~~

○市民の生命・財産を火災等の災害から守り、傷病者を迅速かつ適切に医療機関へ搬送を行います。

○消防団員による現場活動力を強化します。

○救急現場に居合わせた市民などによる応急手当を普及させ、共助による救急活動を推進します。

【手段】

①消防ポンプ自動車、~~化学車救急車~~などの~~消防車両及び消防施設並びに~~消火栓、防火水槽などの消防水利施設の計画的な整備・更新を推進します。

~~②出動指令や境界付近の応援を迅速に行うため、近隣消防本部と消防通信指令事務の共同運用を推進します。~~

②高度な知識と技術を取得した救急救命士を計画的かつ継続的に育成します。

③消防団員に教育訓練等を実施し、消防団活動力の強化に努めます。

④市民に対する救命講習会を開催します。

⑤市民へ救急車の適正利用の啓発を行いません。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
建物火災 1 件あたりの焼損面積	m ²	建物焼損床面積の合計（年）÷建物火災件数（年）	●	●
火災 1 件あたりの損害額	千円	損害額の合計（年）÷火災件数（年）	●	●
<u>心肺停止傷病者の付近に居合わせた人による応急手当実施率</u>	%	<u>同左（暦年）</u>	●	●
<u>消防団員の教育訓練等受講者数</u>	人	<u>同左（暦年）</u>	●	●
通報を受けてから消防隊が現場に到着するまでにかかった時間	分	通報を受けてから消防隊が火災現場に到着するまでにかかった平均時間（暦年）	●	●
通報を受けてから救急隊が現場に到着するまでにかかった時間	分	通報を受けてから救急隊が現場に到着するまでにかかった平均時間（暦年）	●	●

◆基本施策の展開方向 2：火災予防対策を充実します

【目的】

○火災の発生を未然に防止します。

【手段】

- ①住宅用火災警報器の設置を促進します。
- ②防火対象物の立入検査などを通じ、事業所における防火安全体制の確立を促進します。
- ③火災予防啓発活動などを通じ、市民の防火意識の向上を図り、高めます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
住宅用火災警報器の設置率	%	「住宅用火災警報器を設置している」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●
日頃から火災を予防する取り組みを行っている市民の割合	%	「日頃から火災を予防する取り組みを行っている」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●

◆基本施策の展開方向 3：消防・救急活動力を強化します

【目的】

- ~~○消防職員や消防団員による現場活動力を強化します。~~
- ~~○救急業務を強化します。~~
- ~~○救急車の適正利用を促進します。~~

【手段】

- ~~①消防署と消防団による合同訓練を実施し連携強化を図ります。また、消防・救急活動力を強化するために、署内での各種訓練を継続して実施します。~~
- ~~②近隣消防本部や医療機関など関係機関との合同による消防訓練を推進します。~~
- ~~③救急現場に居合わせた市民などによる応急手当の普及に向け、救命講習会を開催します。~~
- ~~④計画的かつ継続的に救急救命士の育成を図ります。~~
- ~~⑤広報こまきや市のホームページなどを通じ、救急車の適正利用に対する市民意識の啓発を図ります。~~

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
署内訓練及び関係機関との合同訓練の実施回数	回	同左（暦年）	●	●
心肺停止傷病者の付近に居合わせた人による応急手当実施率	%	同左（暦年）	●	●

消防団員の教育訓練等受講者数	人	消防団の消防活動力を強化するために実施する教育訓練等の受講者数	●	●
----------------	---	--	---	---

◆基本施策の展開方向-4-3：自主防災会活動を活性化します

【目的】

○市民一人ひとりが「自らの身の安全は自らが守る」「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚を強く持ち、地域の人々全員が災害に備えている、安心なまちづくりを推進します。

【手段】

- ①家庭や地域での防災対策について、地区で実施する防災訓練などで周知・啓発します。
- ②地域消防の担い手である消防団が地区防災訓練に参加し、地域住民と一体となった防災体制を確立します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
防災活動を行っている自主防災会などの組織数	組織	同左	●	●
消防団が参加した自主防災活動実施組織数	組織	同左	●	●
他区と連携して防災活動を行った組織数	組織	同左	●	●

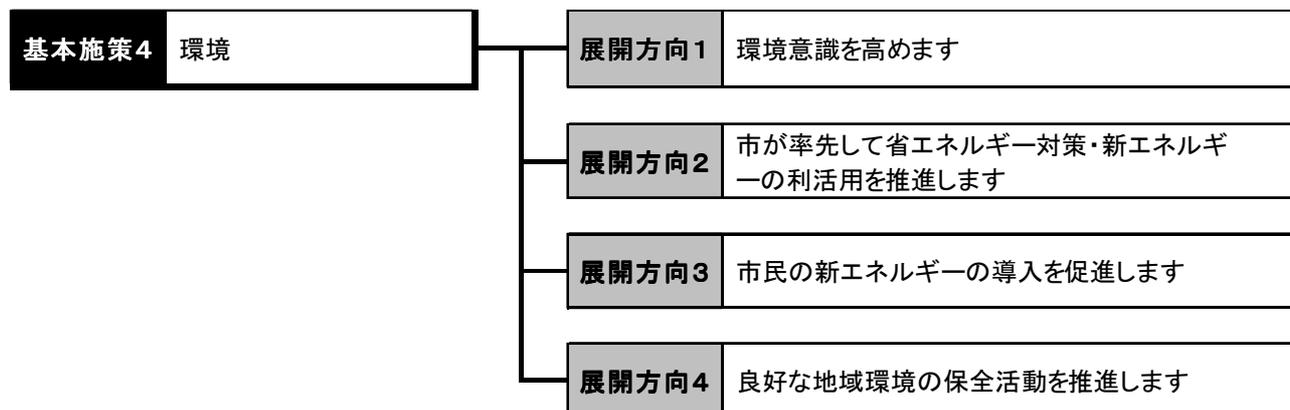
基本施策 4 環境

◆現況と課題

- 温室効果ガスの大気中の濃度が上昇することによる地球の平均気温上昇は、様々な気候の変動をもたらし、人類の生存及び社会経済の存立の基盤を揺るがす重大な脅威です。この地球温暖化の脅威から、現在はもとより将来にわたって国民の生命・身体・財産の安全を確保することは、もはや人類の共通課題として広く認識されるまでに至っています。
- 従来、原子力エネルギーへの依存を高めることを柱として、エネルギーの安定供給の確保を目指し、地球温暖化問題の解決を模索してきたこれまでの我が国のエネルギー政策は、平成 23 (2011) 年 3 月の東日本大震災とこれに続く福島第一原子力発電所の事故によって、大きな転換を迫られています。
- 小牧市においても、温室効果ガスの排出量の着実な削減と、省エネルギー設備及び太陽光に代表される自然の力を利用した新エネルギーの普及拡大を図るため、行政が先導役を果たしつつ、市民・事業者をはじめとする多様な主体との連携・協力による取組を促進し、これらの取組が相乗効果を発揮する好循環の仕組みを確立する必要があります。

◆基本施策の目的及び体系

環境への負荷の少ない低炭素社会の実現などを通じ、地球環境の保全に寄与するとともに、大気や水、土壌などの身近な地域環境を良好な状態に保持し、自然の恵みに満ちた快適で住みよい生活環境を創造します。



◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
市内の電力消費量	MWh	市内における電力販売量	●	●
需要戸数当たりの都市ガス消費量	m ³ /戸	市内の家庭用に供給した都市ガス量/ 需要戸数	●	●

市内環境指標項目の環境基準 ¹ 達成率	%	大気3項目、水質1地点、土壌3地点、騒音4地点の環境基準の達成率	●	●
--------------------------------	---	----------------------------------	---	---

◆基本施策の展開方向1：環境意識を高めます

【目的】

○次代を担う子どもたちをはじめ、より多くの市民が大気や水、土壌などの身近な地域環境を良好な状態に保つための活動に主体的に取り組めるようにします。

【手段】

① ~~身近な地域環境に対する市民の関心の喚起と主体的な保全活動の実践に結び付くよう、市民環境講座や水生生物調査などの環境学習の機会の提供や学習内容の充実を図ります。~~ します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
日頃から環境にやさしい取組みを心掛けている市民の割合	%	「日頃から身近な地域環境にやさしい取組みを心掛けている」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●
日頃から環境にやさしい取組みを心掛けている子どもの割合	%	「日頃から身近な地域環境にやさしい取組みを心掛けている」と回答した子どもの割合（アンケート調査）	●	●

◆基本施策の展開方向2：市が率先して省エネルギー対策・新エネルギーの利活用を推進します

【目的】

○低炭素社会の実現に寄与し、市民・事業者の規範となるよう、市有施設のエネルギー消費量及び温室効果ガス排出量を最大限削減します。

【手段】

①市有施設の新設や改修にあわせ、省エネルギー設備や新エネルギー~~の~~を導入~~を~~推進します。
②市が率先して省エネルギー化に向けた行動を実践します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
公共施設のエネルギー消費量	k1	市所有の全ての公共施設で消費される原油換算したエネルギーの消費量（省エネ法に準拠）	●	●

¹ 人の健康の保護及び生活環境の保全のうえで維持されることが望ましい基準

◆基本施策の展開方向 3：市民の新エネルギーの導入を促進します

【目的】

○市民の日常生活における新エネルギーの導入を促進します。

【手段】

①太陽光や太陽熱などを活用した新エネルギー利用設備を導入した市民に対する補助を行います。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
太陽光発電システムの普及基数	基	市の補助を受け、設置された住宅用太陽光発電システムの基数	●	●

◆基本施策の展開方向 4：良好な地域環境の保全活動を推進します

【目的】

○市民や事業者との連携・協力のもと、大気や水、土壌などの身近な地域環境を良好な状態に保持し、公害の発生を適切に防止します。

【手段】

- ①大気汚染や水質汚濁、土壌汚染などの監視測定を行います。
- ②地域環境に著しく影響を与える可能性がある工場などを設置又は設置しようとしている事業者と環境保全協定を締結します。
- ③地域環境の改善に寄与する施設・設備を導入する市民に対する補助を行います。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
河川の BOD ² 平均値	mg/L	市内河川 3 7 地点の平均値	●	●

²有機物による水の汚濁の程度を示す指標

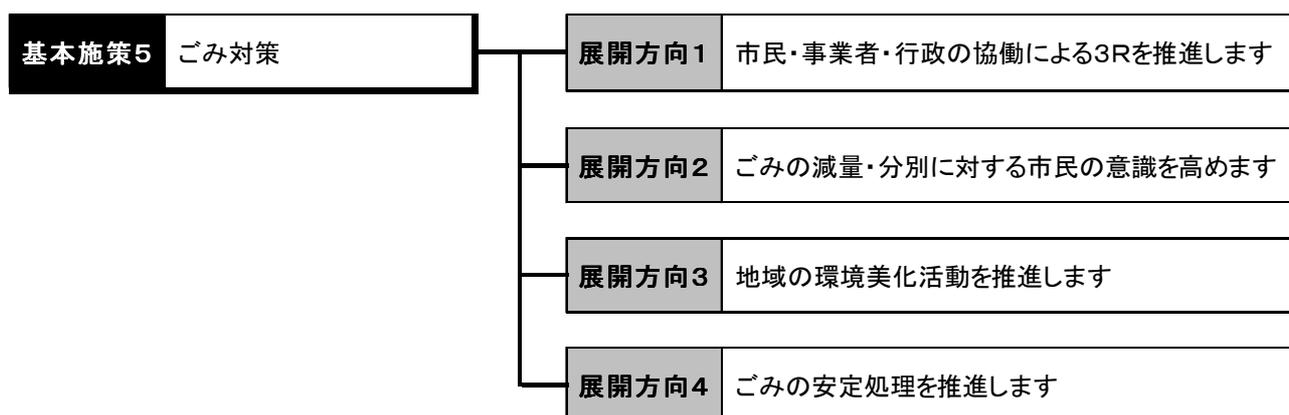
基本施策 5 ごみ対策

◆現況と課題

- 近年、中国の外交問題に端を発したレアアースの対日輸出規制や東日本大震災で発生した大量のがれき処理問題などを契機に、国内のごみ対策は、廃棄物の減量化に重きを置いてリサイクル等を推進する段階から、廃棄物等を貴重な資源やエネルギー源としてより一層有効活用し、資源生産性を高め、枯渇が懸念される天然資源の消費を抑制しようとする新たな段階へと移行しつつあります。
- 小牧市の平成 24 (2012) 年度のごみ総収集量 (家庭系) は 34,110 t、総処理量 (事業系含む) は 46,832 t であり、平成 17 (2005) 年度以降減少傾向で推移しています。また、平成 23 (2011) 年度のごみの総排出量を近隣 6 市³と比較すると、小牧市の 1 人 1 日当たりの総排出量は 886 g / 人・日で全 7 市中多い方から 4 番目、また、リサイクル率は 27.0% で 2 番目の高さとなっています。
- 資源循環型社会の構築に向け、今後も引き続き、市民や事業者との連携・協力のもと、3R (リデュース=ごみの発生抑制、リユース=再利用、リサイクル=再資源化) やごみの安定処理に向けた取組を着実に推進する必要があります。

◆基本施策の目的及び体系

市民・事業者との適切な役割分担のもと、協働で資源循環型社会を構築するとともに、ごみのポイ捨てなどが無い快適で清潔な生活環境を確保します。



³ 春日井市、刈谷市、安城市、犬山市、江南市、岩倉市の計 6 市。

◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
1 人 1 日当たりの年間ごみ排出量（事業系ごみ含む）	g	市内から排出される家庭系ごみ、事業系ごみの排出量	●	●
不法投棄されたごみの環境センターへの搬入量	k g	市有地へ不法投棄されたごみの回収量	●	●

◆基本施策の展開方向 1：市民・事業者・行政の協働による 3 R を推進します

【目的】

○市民・事業者との協働による 3 R の取組を推進し、ごみの再資源化率を高めます。

【手段】

- ①生ごみの堆肥化、雑がみなどの再資源化を推進します。
- ②事業者に対し、廃棄物減量等推進計画書の作成を徹底するなど、ごみの排出指導を強化します。
- ③P T A・子ども会などによる自主的な資源回収活動を支援します。
- ④資源回収ステーションの活用や民間による資源回収コンテナの斡旋などを通じ、地域における資源回収の機会を増やします。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
再資源化率	%	ごみの総排出量に対する資源化量の割合	●	●
事業系ごみの年間排出量	t	同左	●	●

◆基本施策の展開方向 2：ごみの減量・分別に対する市民の意識を高めます

【目的】

○市民一人ひとりがごみ出しのルールを遵守するとともに、家庭からのごみの排出を可能な限り抑制します。

【手段】

- ①様々な機会や媒体を活用し、ごみの分別方法や減量方法などを分かりやすく紹介する出前講座や環境教育等を実施します。
- ②~~すべての市民にごみの分別方法を周知するため~~、転入者や外国人市民にも ごみの分別方法がわかるようにパンフレット等による啓発を行います。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
家庭系ごみの 1 人 1 日当たりの排出量（資源を除く）	g	家庭系ごみのうち、可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみの排出量	●	●

◆基本施策の展開方向 3：地域の環境美化活動を推進します

【目的】

○ごみのポイ捨てなどのない、快適で清潔な生活環境を確保します。

【手段】

- ①ごみの散乱防止重点地域において、市民・事業者とともに、~~「ごみのない美しいまちづくり」に向け~~環境美化活動を推進します。
- ②アダプトプログラム⁴やクリーンアップ事業の推進などにより、市民の自主的な環境美化活動を支援します。
- ③各地域におけるごみ集積場の適正管理に対する支援をします。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
ポイ捨てがないきれいなまちだと思ふ市民の割合	%	「ポイ捨てがないきれいなまちだと思ふ」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●
クリーンアップ事業年間参加者数	人	10 人以上で構成された団体による清掃活動への参加者数 市はごみ袋などの配布やごみ収集を行う。	●	●

◆基本施策の展開方向 4：ごみの安定処理を推進します

【目的】

○廃棄物を安定的かつ安全に処理するとともに、より適切な条件下で再利用や資源化を推進します。

【手段】

- ~~①新たな焼却炉の整備、クリーンセンターとし尿浄化槽汚泥処理施設の統合を推進します。~~
- ①新たな焼却炉を整備します。
- ②クリーンセンターとし尿浄化槽汚泥処理施設を統合します。
- ~~②③~~一般廃棄物処理施設の適正な管理運営を行います。

⁴ 道路や公園などを気持ちよく利用できるよう、市民自らがごみ拾いや樹木への散水、除草等のボランティア活動を行うこと。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
焼却施設における可燃ごみの年間処理量	t	同左	●	●
し尿処理施設における年間処理量	k l	同左	●	●
資源回収量	t	市の収集や集団回収で回収される資源ごみ等の総量	●	●

V 産業・交流

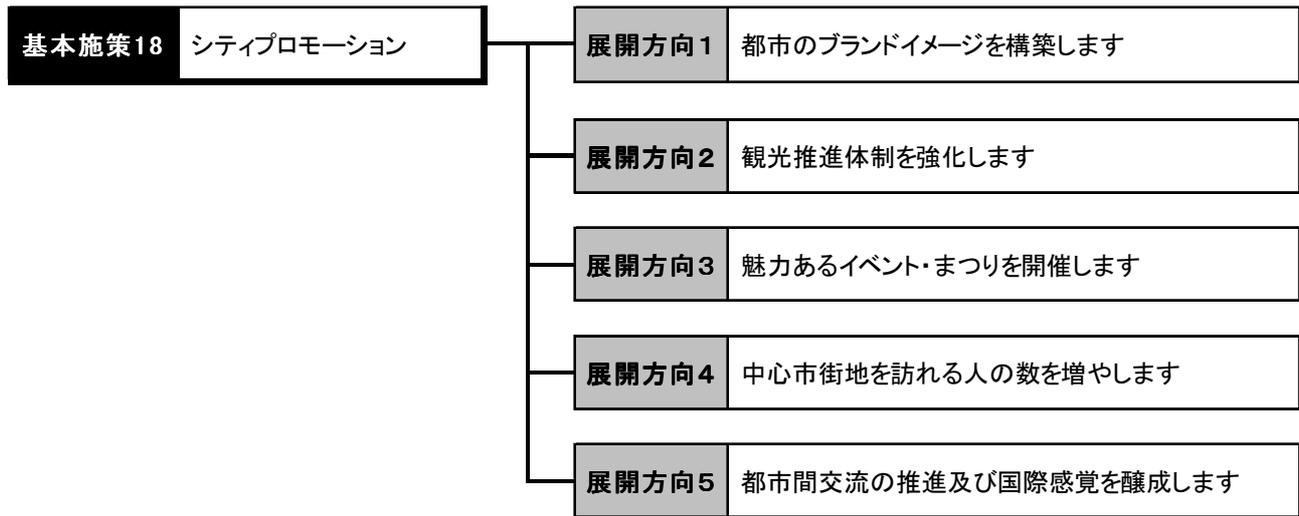
基本施策 18 シティプロモーション

◆現況と課題

- 全国的に少子高齢化の進展や地域における所得の多くを稼ぎ出している現役世代ともいえる生産年齢（15～64 歳）人口の減少に伴い、域内消費の減退が懸念されており、これを補うために域外からより多くの人々を呼び込み、経済活力の維持・増進を図るため、観光を核とした地域振興に取り組む地域が増加傾向にあります。
- 小牧駅周辺部に広がる中心市街地は、市内でも特に人口集積の度合いが高い一方、建物の取り壊しや更地化を含めた小売店の用途転換・廃止のほか、駐車場や空き地、空き店舗などの低未利用地の存在が目立ち、中心市街地としての求心力や賑わいが低下しています。
- 今後、自然、歴史、文化などの多彩な地域資源をさらに磨き上げ、その魅力を広く情報発信することで、まちのブランド力を高め、市内外の人的・物的交流の促進や地場製品の消費拡大、市民の愛着や誇りの醸成などの様々な相乗効果を発揮できるよう、多様な主体との連携・協力のもと、より高い実効力を伴った地域振興施策を積極的に推進する必要があります。

◆基本施策の目的及び体系

さまざまな地域資源を活用し、本市のブランド力を高めるとともに、本市の魅力を市内外に発信することにより、本市に「訪れたい人」「住みたい人」「住み続けたい人」を増加させます。



◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
小牧市の定住人口	人	住民基本台帳に記載された人口	●	●
小牧市の交流人口	人	観光レクリエーション利用者統計（愛知県）	●	●

◆基本施策の展開方向 1：都市のブランドイメージを構築します

【目的】

○本市が持つ豊かな自然や歴史、文化、特産品などさまざまな地域資源を活用し、ブランドブックに示す都市のブランドイメージを醸成する。

【手段】

- ① 市民や企業、関係団体など多様な主体と協力・連携し地域資源のブランド化に向けた推進体制を構築します。
- ② 市広報、ホームページ、SNS¹など様々な媒体を活用して様々な小牧の魅力をより効果的に市内外へ情報発信します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
小牧市がブランドブックに示す都市のブランドイメージと合っていると感じる市民の割合	%	「小牧市がブランドブックに示す都市のブランドイメージと合っている」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●

※ブランドブックは現在、策定中であり策定後、指標を置き換え予定。

◆基本施策の展開方向 2：観光推進体制を強化します

【目的】

○小牧山城 450 年記念事業を契機として、小牧市民が自分達の住むまちに誇りと愛着を持ち、また市外からも訪れてみたいと支持されるような魅力のある都市を目指します。

【手段】

- ①自然、歴史、文化、特産品などの多彩な地域資源を活用し、特色ある観光事業を実施します。
- ②市広報、ホームページ、SNS など様々な媒体を活用するとともに観光案内所などにおいて~~も~~観光情報の発信や提供を行います。
- ③観光協会の自立化を図るとともに、市民活動団体、地域住民、関連企業及び大学との連携を密にするなど、観光推進体制を強化します。
- ④近隣市町村及び観光協会との交流を図り、広域的な魅力ある観光地域づくりに取り組みます。

¹ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略称。人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型の会員制のサービス。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
主要な観光施設・資源の利用者数	人	市内の観光施設（小牧市歴史館、パークアリーナ小牧、田県神社等）の利用者数	●	●

◆基本施策の展開方向 3：魅力あるイベント・まつりを開催します

【目的】

○イベントやまつりを通じて、市民の連帯感や地域に対する誇りを高めます。

【手段】

① 参加者と観客の垣根がない熱気と一体感を伴った魅力あるイベントやまつりを開催します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
市が主催するイベントやまつりに参加した市民のうち、満足している市民の割合	%	市が主催するイベントやまつりに参加した市民のうち「参加して満足している」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●
市が主催するイベントやまつりに満足している、または楽しみにしている市民の割合	%	市が主催するイベントやまつりに「満足している、または楽しみにしている」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●

◆基本施策の展開方向 4：中心市街地を訪れる人の数を増やします

【目的】

○小牧駅周辺に広がる中心市街地への来街者数を増やし、まちに賑わいを呼び起こします。

【手段】

①ハード・ソフトの両面から、来街者が快適で安心して買物・イベントなどを楽しめる環境づくりを推進します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
中心市街地が賑わっていると思う市民の割合	%	「中心市街地が賑わっていると思う」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●
中心市街地の主要な施設の利用者数	人	子育て広場、絵本図書館、観光案内所の利用者数	●	●

◆基本施策の展開方向 5：都市間交流の推進及び国際感覚を醸成します

【目的】

- 国際社会を生きるための幅広い視野と豊かな人間性を育みます。
- 国籍の異なる市民同士が地域社会の一員として支えあう多文化共生社会を形成します。

【手段】

- ①今後も引き続き、児童・生徒を中心に姉妹都市や友好都市との交流事業を推進します。
- ②国籍・民族・文化・言葉など互いの「ちがい」を学ぶ機会を充実させるとともに、外国人市民と交流がしやすい環境づくりを推進します。
- ~~③パークアリア＝小牧を拠点として活動する海外名門クラブチームによるサッカー＝教室や大会を開催し、子どもたちが世界のレベルに触れたり交流できる環境をつくります。~~
- ~~④海外留学のための奨学金制度を創設し、子どもたちが海外を実際に体験できるよう支援します。~~

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
小牧市は国際都市だと感じる市民の割合	%	「小牧市は国際都市だと思う」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●
国際交流事業などへの年間参加者数	人	国際交流協会が実施する各種講座やイベントへの参加者数	●	●

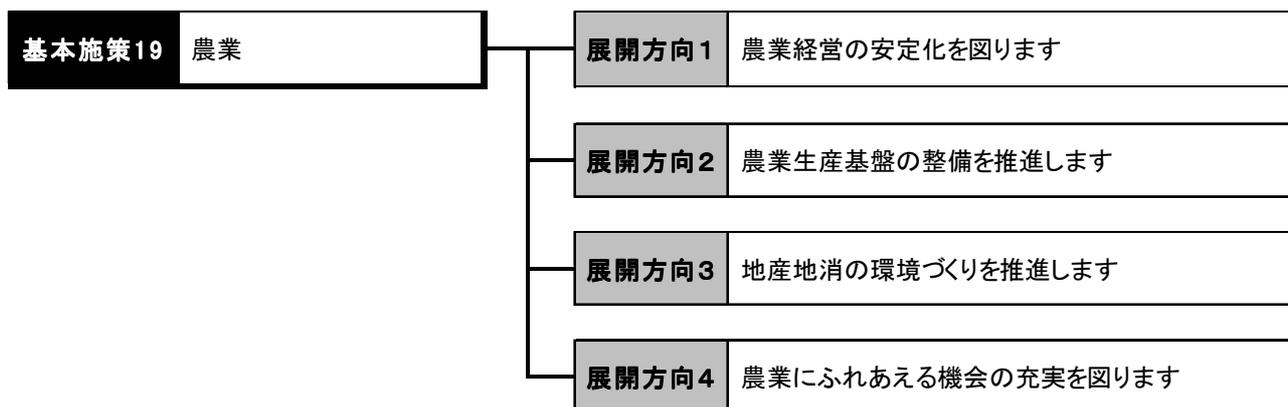
基本施策 19 農業

◆現況と課題

- 先進国の中では、食料自給率が最低水準にあるとされる我が国²では、異常気象による主要生産国の減産をはじめ、各種の食料安全保障上のリスクに直面しています。このような状況下、国内の農業生産を増大をさせることを基本に、これと輸入を適切に組み合わせながら、食料の安定供給の確保を図ることが我が国全体の重要な政策課題の1つとなっています。
- 自動車産業に代表されるものづくりの中心地として知られる愛知県は、平成 22 (2010) 年の農業算出額が 2,962 億円で全国第 6 位と、国内有数の「農業県」としての性格を併せ持っています。小牧市~~でも、桃やぶどう、いちじくなど果物の生産が盛んであり、~~は、米が市内全域で生産されておりますが、収穫量が年々減少傾向にあります。近年、専業農家数は概ね横ばいですが、兼業農家数においては、減少が顕著になっています。また、市東部において桃やぶどう、いちじくなど果物の生産が盛んであり、特に「しのおかの桃」は全国的にも名高い逸品として知られていますが、~~近年、全国的な傾向と同様に、従事者の高齢化や後継者不足による離農が続いています。~~
- 安全・安心な農産物の提供、地産地消を通じた食育の推進、ゆとりや潤いを醸し出す良好な地域環境保全など、農業・農地が担っている多面的な役割が将来にわたって適切に発揮されるよう、地域ぐるみで農業を支える必要があります。

◆基本施策の目的及び体系

市民の農業に対する理解を深めるとともに、安定した農業経営と農業生産基盤の維持・向上を図り、優良な農地を保全します。



² 「平成 24 年度食料・農業・農村白書（農林水産省）」によると、平成 21 (2009) 年の我が国の食料自給率（供給熱量ベース）は 40%であり、米国（130%）の約 3 割程度、また、日本と同様に食料の多くを輸入している韓国（50%）やスイス（56%）を下回っているとされている。

◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
農家 1 戸当たり生産農業販売実績額	千円	J A尾張中央組員 1 戸当たりの販売実績額	●	●
耕作放棄地の面積	ha	同左	●	●

◆基本施策の展開方向 1：農業経営の安定化を図ります

【目的】

○地域農業の担い手を育成・確保し、効率的で安定的な農業経営を促進します。

【手段】

- ①新規就農者や農業後継者に対する補助制度や融資制度の情報提供などを行います。
- ②農業者との話し合いをとおして意欲のある農業者を発掘し、「小牧市 人・農地プラン（地域農業マスタープラン）³」に地域の中心となる経営体として位置付けた農業者を増やします。
- ③生産者、大学などと連携し、「しのおかの桃」に代表される小牧市の農産物の高付加価値化を図ります。
- ④④ヌートリア、アライグマ、カラスなどに対する防除事業を実施します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
新規農業就業者数	人	同左（累計） （小牧市 人・農地プラン）	●	●
認定農業者数	戸	同左 （小牧市 人・農地プラン）	●	●

◆基本施策の展開方向 2：農業生産基盤の整備を推進します

【目的】

○食料生産に不可欠な農業用水を効率的・安定的に確保します。

【手段】

- ①かんがい用施設の整備を行います。
- ②ため池の適切な整備を図ることにより、良好な営農活動を行うのに必要な農業用水の安定的供給を確保します。
- ③林道整備や森林病虫害の防除を計画的に実施します。

³ 担い手問題や農地集積など、当該地域が抱える農業の問題点について、行政と地域が共に考え、解決策を導き出し、今後も地域の農業が継続できるようにすることを目的としたプラン。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
かんがい用施設整備の受益面積	ha	受益地内の水田の面積	●	●

◆基本施策の展開方向 3：地産地消の環境づくりを推進します

【目的】

○生産者と消費者の交流を促進するとともに、**新鮮で安全な**地元農産物の域内消費を拡大させます。

【手段】

- ①より多くの市民が地元で生産された新鮮な農産物を入手できる**機会の充実を図ります。直売所や朝市などの情報を積極的に発信します。**
- ②農業祭（いきいきこまき）などのイベントや催し物の開催を通じた地元農産物利用のPRや、食文化の伝承活動を推進します。
- ③**農業者の方々に対して栽培記帳（トレーサビリティ）の重要性を啓発します。**

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
身近な地域で採れた農産物を食べるように心がけている市民の割合	%	「身近な地域で採れた農産物を食べるように心がけている」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●
地産地消をテーマとしたイベントや催し物への参加者数	人	農業祭の来場者数	●	●

◆基本施策の展開方向 4：農業にふれあえる機会の充実を図ります

【目的】

○農業・農地が担っている多面的な役割に対する市民の理解を深め、地域ぐるみで農業を守り支えていく活動につなげていきます。

【手段】

- ①市民菜園事業や農業体験事業など**を通じ、**市民が農業とふれあえる**機会の充実を図り増や**します。
- ②**地域の共同活動を支援することにより農地等の保全管理の向上を図ります。**
地域による農地・農業用水等の保全向上活動を支援します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
市民菜園の利用面積	m ²	同左	●	●

【資料 1-1】 V 産業・交流

農業体験事業の参加者数	人	同左	●	●
-------------	---	----	---	---

基本施策 20 商工業

◆現況と課題

~~○平成 25 (2013) 年 6 月、政府は日本経済の再生に向けた「3本の矢」のうち、3本目の矢である成長戦略「日本再興戦略—JAPAN is BACK—」を開議決定しています。「日本再興戦略」では、第1の矢「大胆な金融政策」、第2の矢「機動的な財政政策」を受け、成長実現に向けた具体的な取組として「日本産業再興プラン」「戦略市場創造プラン」「国際展開戦略」の3つのアクションプランを掲げています。~~

○小牧市は、東名、名神高速道路等の広域交通網に加え、市域南部の県営名古屋空港とともに、陸空の交通の要衝として機能しております。また、昭和30年代の工場誘致条例の施行により、製造業を中心に多くの事業所が立地しています。

○広域交通体系の利便性に恵まれた土地条件にあるとともに、名古屋を中心に立地している様々な関連企業に近い立地条件を備えており、新規産業の立地に高い優位性を備えております。また、製造業においては、特定の業種に特化せず、様々な業種がバランスよく立地しており、経済環境や市場の変化に対し強みをもった産業構造を有しています。

○小牧市では、市の強みや特性を活かした産業の集積・形成などを図るにあたり、産業支援、創業支援及び企業立地のあり方について議論し、戦略的な産業振興施策の立案とその推進を実践するため、平成 24 (2012) 年 3 月から「産業立地戦略会議」を開催しています。

○小牧市が都市としての経済活力をさらに高めるためには、国の動向を注視しつつ、広域交通網の結節点に位置する地理的優位性を活かし、市外からより多くの人と企業を呼び込むとともに、既存企業の活性化や就労対策の強化などを通じ、地域の中でより活発な経済循環が生み出される強固な産業構造を構築する必要があります。

○産業立地戦略会議での議論をふまえ、産業支援及び企業誘致のあり方についての方向性や具体的な施策の内容を「産業振興基本計画」(平成 25 年度策定予定)へ反映させるとともに、これらを継続的に実施していくことが重要です。

◆基本施策の目的及び体系

市外からより多くの人と企業を呼び込み、雇用の拡大にも結び付くよう、小牧市の強みや特性を活かしながら、バランスのとれた足腰の強い産業構造を構築します。

基本施策 20 商工業

展開方向 1 工業用地の整備と企業誘致を推進します

展開方向 2 既存商工業の経営を支援します

展開方向 3 起業・創業希望者を支援します

展開方向 4 就職希望者や未就業者の就業を支援します

◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
小牧市が先進的産業都市だと感じる市民の割合	%	「小牧市が先進的産業都市だと思う」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●
市内総生産額の県内順位	位	工業統計調査	●	●
従業員者数	人	商業統計及び工業統計（従業員 4 人以上の製造業の事業所）の合計人数	●	●

◆基本施策の展開方向 1：工業用地の整備と企業誘致を推進します

【目的】

○市内への企業誘致や投資を促進するとともに、新たな成長産業を育成・誘致します。

【手段】

- ① 情報収集に努め、新たな工業用地を確保するとともに、各種規制の見直しによる企業ニーズを踏まえた立地環境の向上を図ります。
- ② 航空宇宙産業分野に参入している、参入に関心のある企業に対する支援を推進します。
- ③ 企業立地を促進するための体制づくりや支援制度の充実を図ります。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
新規進出企業の累計数	件	新たに市内に立地した製造業事業所の累計数	●	●
1 事業所当たり製造品出荷額等の県内順位	位	工業統計調査	●	●

◆基本施策の展開方向 2：既存商工業の経営を支援します

【目的】

- 地域経済を支える中小企業の経営基盤を安定、成長させます。
○地元商店街における集客力を向上させ、消費を拡大させます。

【手段】

- ~~④中小企業に対し、各種の補助事業を通じた支援や融資を受ける際の負担軽減を図ります。~~
- ① 各種の補助事業を通じた支援により中小企業の負担を軽減します。
- ② 中小企業の経営課題や新たな事業展開に対し、各種産業支援機関と連携し相談・助言を行なう支援体制を構築します。
- ③ 小売業者や商業団体などが実施する事業を支援するとともに、プレミアム商品券事業を推進

します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
これからも小牧市で操業を続けたいと思う事業者の割合	%	市内の既存事業所のうち「これからも小牧市で操業を続けたいと思う」と回答した経営者の割合（アンケート調査）	●	●
<u>小牧市の産業支援策について、他市と比べ充実していると思う事業者の割合</u>	%	<u>市内の既存事業所のうち「小牧市の産業支援策について他市と比べ充実している」と回答した経営者の割合（アンケート調査）</u>	●	●

◆基本施策の展開方向 3：起業・創業希望者を支援します

【目的】

○市内で新たに起業、創業を行おうとする人々への支援をします。

【手段】

①セミナー等を通じて起業、創業希望者に対して必要とされる創業計画の作り方、税法、資金調達方法等の基本的知識の提供を行います。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
起業（創業）者数	人	創業支援セミナーの受講者のうち実際に起業（創業）した人数（累計）	●	●

◆基本施策の展開方向 4：就職希望者や未就労者の就業を支援します

【目的】

○ふるさとハローワークなどの関係機関との連携・協力のもと、就職希望者や未就労者市民の就労を支援します。

○市内中小企業で働く人々の福利厚生を支援します。

【手段】

①様々な媒体を活用した求人情報の提供や職業相談、職業紹介などを行います。~~通じ、就職希望者や未就労者の就労を促進します。~~

②「小牧勤労センター」の運営を通じ、~~など~~各種福利厚生サービスををの提供を推進します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
就職者数	人	ふるさとハローワークを活用して実際に就職した数	●	●

VI 都市基盤

基本施策 21 市街地整備

◆現況と課題

- 将来的な人口減少、高齢化の進行に伴い、名鉄小牧線を軸としたコンパクトシティの形成が求められています。
- 小牧駅周辺部に広がる中心市街地は、市内外から多くの人々が行き交う本市の玄関口として、これまで積極的に都市基盤整備が図られてきましたが、近年では、大規模な商業施設の郊外化が進み、小牧駅周辺の商業系市街地ではマンションの立地が顕著となっています。今後においては、名鉄小牧駅周辺において、賑わい、交流、交通など様々な都市機能について、ハード事業とソフト事業の連携を図ることが必要です。
- 公共交通の結節点である鉄道駅を中心とした拠点整備を図るため、道路、広場などの都市施設の整備が必要です。
- 市街化区域のうち、名鉄小牧線沿線では、土地区画整理事業による良好な居住環境の整備にあわせ、各地区の特性に応じた各種事業を実施し、より魅力的かつ安全・安心で、環境にもやさしく、住みやすいまちづくりを推進し、人口の流入と定住化を図る必要があります。
- その他の市街化区域では、防災上危険な密集市街地や低未利用地が存在する地区を中心に、適切な土地利用に向け、土地区画整理事業や道路の整備を着実に推進していく必要があります。

◆基本施策の目的及び体系

名鉄小牧線沿線部を中心に、より多くの市民が便利で快適に暮らせる生活空間を確保するとともに、小牧駅周辺部におけるまちの魅力を向上させます。

基本施策 21 市街地整備

展開方向 1 鉄道駅周辺の都市機能を強化します

展開方向 2 良好な住宅地を創出します

展開方向 3 都市景観を整えます

◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
小牧駅周辺が便利だと思う市民の割合	%	「小牧駅周辺が便利だと思う」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●
名鉄小牧線沿線居住率	%	名鉄小牧線沿線市街地の居住人口 / 市全体の人口 × 100	●	●
小牧市の景観について、好ましいと感じる市民の割合	%	「小牧市の景観が好ましいと感じる」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●

◆基本施策の展開方向 1：鉄道駅周辺の都市機能を強化します

【目的】

- ~~○拠点性のある市街地の形成に向け、鉄道駅周辺において拠点づくりを進めます。~~
- 公共交通の結節点である鉄道駅周辺において、公共交通利用者の利便性を向上します。
- ~~○特に、名鉄小牧駅周辺においては、本市中心市街地としてのまちの魅力向上を図ります。~~
- 特に、名鉄小牧駅周辺においては、本市の中心市街地として魅力を高め、賑わいを創出します。

【手段】

- ~~①駅前広場の整備や未利用地の有効活用などにより、公共交通利用者の利便性を向上します。~~
- ①鉄道駅周辺において、駅前広場、道路などを整備します。
- ②A街区をはじめ名鉄小牧駅周辺の整備を進めます。都市機能の整備・維持により機能を強化します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
名鉄小牧線の駅が利用しやすいと思う市民の割合	%	「市内の名鉄小牧線の駅が利用しやすいと思う」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●
名鉄田県神社前・味岡・小牧・小牧口駅の年間乗降客数	人	同左 (名古屋鉄道(株) データ)	●	●

◆基本施策の展開方向 2：良好な住宅地を創出します

【目的】

- 名鉄小牧線沿線の市街地において、生活環境を改善するとともに及び良好な宅地を供給を図りします。

【手段】

- ①土地区画整理事業による市街地整備を推進します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
土地区画整理事業の施行区域内の居住人口	人	同左 (毎年1月1日現在)	●	●
土地区画整理事業の施行区域内の道路整備率	%	道路整備済み延長/ 道路計画延長×100	●	●

◆基本施策の展開方向3：都市景観を整えます

【目的】

~~○個性を活かした秩序ある街並みの保全・誘導を図ります。~~

○個性を活かしつつ、親しみや緑豊かでやすらぎを感じる景観の保全・誘導を図ります。

【手段】

①景観形成の目標やその実現に向けた指針を示した「小牧市都市景観基本計画」~~を見直し、これ~~に基づく良好な景観づくりを推進します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
歴史的趣や緑豊かな小牧山が見える景観に魅力を感じている市民の割合	%	「歴史的趣や緑豊かな小牧山が見える景観に魅力を感じる」と回答した市民の割合	●	●

基本施策 22 都市交通

◆現況と課題

- 近年、少子高齢化の進行や人口減少社会の到来、地域の自立・活性化、地球温暖化をはじめとする環境問題など、社会経済状況の変化とこれに伴う諸問題への対応を図るため、全国的に公共交通サービスの活性化や再生に向けた取組を強化する機運が高まっています。
- このような状況を踏まえ、小牧市では、平成 23 (2011) 年 3 月に「小牧市総合交通計画」を策定し、「小牧市の一体化を促進し、活力あるまちづくりを支える交通体系」「持続可能な交通体系」「地域が支える交通体系」という将来像を掲げ、その実現に向けた取組方針を体系的に示しています。
- 現在、小牧市では、公共交通を利用することが不便な地域の解消などを目的として、計 8 コースにわたる「こまき巡回バス」と小牧駅と桃花台ニュータウンを結ぶ「ピーチバス」を運行しています。平成 20 (2008) 年度以降、「ピーチバス」の年間利用者数は 4 年連続で対前年度比マイナスとなっている一方、「こまき巡回バス」の利用者数は、平成 23 (2011) 年 10 月以降、65 歳以上の方の無料化の実施とともに大きく伸びてきています。
- 今後、小牧市でも、社会経済状況の変化に対応した新たな公共交通システムと既存の公共交通システムとの連携を強化し、市全体としてより一層利便性の高い公共交通ネットワークの構築を図るとともに、利用者ニーズに応じた運行形態の見直しなどに取り組む必要があります。

◆基本施策の目的及び体系

各種の公共交通機関が有機的に連携するとともに、より多くの市民が自ら進んで利用することにより、持続可能な公共交通ネットワークを構築します。

基本施策 22 都市交通

展開方向 1 より効果的・効率的な公共交通ネットワークを形成します

展開方向 2 公共交通の利用を啓発します

◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
小牧市の公共交通に満足している市民の割合	%	「小牧市の公共交通に満足している」と回答した市民の割合（市民アンケート）	●	●
公共交通機関の 1 日平均利用者数	人	名鉄小牧線、路線バス、巡回バスなどの 1 日平均利用者数の合計	●	●

◆基本施策の展開方向 1：より効果的・効率的な公共交通ネットワークを形成します

【目的】

○より多くの市民にとって利用しやすい公共交通の実現を図ります。

【手段】

- ①「こまき巡回バス」の利便性を向上を図りさせます。
- ②デマンド交通¹の導入を実証実験の結果に基づき検討します。
- ③名鉄犬山線へのバスによるアクセスが可能となるよう、新規のバス路線を開設します。
- ④名鉄小牧線各駅において交通結節機能を強化を図ります。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
公共交通の利用者満足度	%	1 週間に 1 度は公共交通を利用している市民で「公共交通に満足している」と答えた市民の割合（市民アンケート）	●	●
こまき巡回バス 1 日平均利用者数	人	同左 （運行事業者データ）	●	●
放置自転車台数	台	市が管理する駐輪場における放置自転車数	●	●

◆基本施策の展開方向 2：公共交通の利用を啓発します

【目的】

- 交通渋滞の解消や地球温暖化防止による二酸化炭素の排出抑制を図ります。
- 市民の日常生活を支えるために必要な公共交通サービスの維持・存続を図ります。

【手段】

- ①必要に応じ乗り合いバス事業者に対して運行経費を補助します。
- ②公共交通の利用促進に向け、地域住民に対する啓発活動を推進します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
通勤目的の公共交通利用率	%	「従業員を対象とする通勤行動に関する調査(H21.11)における普段の主な通勤手段のうち、鉄道、路線バス、送迎バスの合計	●	●
バス運行対策補助路線の利用者数	人	乗合バス事業者に対し、運行経費を補助しているバス路線の利用者数	●	●

¹ 電話予約など利用者のニーズに応じて柔軟な運行を行う公共交通の一形態。

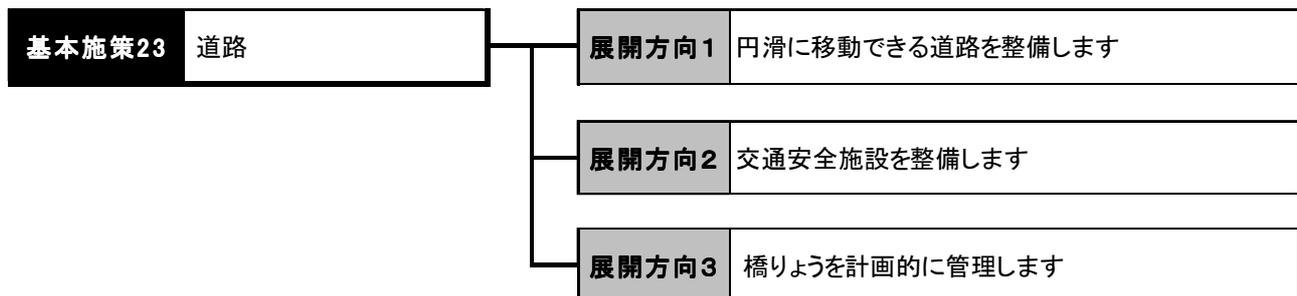
基本施策 23 道路

◆現況と課題

- 平成 24（2012）年 12 月に笹子トンネル崩壊事故があった中央自動車道に代表されるように、国内の幹線道路ストックの多くが、昭和 30 年代～40 年代の高度経済成長期に集中的に整備され、今後、急速に老朽化が進行すると見込まれています。
- 平成 25（2013）年 4 月 1 日現在、都市計画法で定められた基幹的な都市施設の 1 つであり、都市の主要な骨格を形成している都市計画道路について、小牧市では 116.19km が計画決定されています。このうち、整備済延長は 105.83km、整備率は 91.1%であります。
- すべての人々が安全・快適で円滑に移動できる道路空間を確保し続けるためには、交通安全はもとより、街路樹緑化等にも配慮する必要がある一方、近年、厳しさを増す財政状況の中で、選択と集中のもと、従来にも増して効率的かつ効果的な道路整備を推進する必要もあります。
- 平成 25（2013）年 4 月 1 日現在、小牧市が管理する橋りょうは 508 橋、総延長 4.4km となっており、歩道橋については 29 橋、総延長 1.9km となっています。これらの中で、概ね 25 年後には橋齢が 50 年を超えるものが全体の約 9 割を占めています。今後、これらの橋りょう 及び歩道橋では老朽化の進行が見込まれることから、優先度や緊急性を踏まえた計画的な改修の推進が必要となっています。
- 市道犬山公園小牧線などの緊急輸送路及び避難路などの重要路線を確保するため、橋りょう及び歩道橋の計画的な耐震整備を行う必要があります。又、小牧市には重要路線を跨ぐ跨道橋(高速自動車道・国道・県道)などがあり、耐震補強を行うことで、地震時に落橋等による二次災害を起こさないようにすることが必要になっています。

◆基本施策の目的及び体系

歩行者、自転車、自動車など道路を利用するすべての人々が、安全・快適で円滑に移動できる道路空間を確保します。



◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
安全・快適で円滑に移動できる道路空間が確保できていると感じる市民の割合	%	「安全・快適で円滑に移動できる道路が整備されていると思う」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●

◆基本施策の展開方向 1：円滑に移動できる道路を整備します

【目的】

○市内の交通渋滞を解消します。~~を図ります。~~

【手段】

①都市計画道路をはじめとする幹線道路の事業用地取得、整備を行いません。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
市内で渋滞を感じるドライバーの割合	%	「車を運転する」と回答した市民のうち「小牧市は渋滞が多い」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●

◆基本施策の展開方向 2：交通安全施設を整備します

【目的】

○通学路における児童・生徒の通行の安全を確保します。

○歩行者や自転車の通行の安全を確保します。

【手段】

①通学路などにおける歩道の整備を行いません。

②防護柵や標識、照明灯、カーブミラーなど交通安全施設の整備を行います。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
歩行者の交通事故件数	件	小牧警察署資料	●	●

◆基本施策の展開方向 3：橋りょうを計画的に管理します

【目的】

○歩道橋を含めた橋りょうの安全な通行を確保します。

【手段】

①橋りょうの耐震補強工事等を計画的に推進します。~~。落橋等による事故を防ぎます。~~

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
橋りょうの耐震補強工事実施率	%	耐震補強工事済橋りょう数／耐震補強を必要とする橋りょう数	●	●

基本施策 24 上水道

◆現況と課題

- 近年、人口減少社会の到来や節水型機器の普及などによる節水意識の定着化により、水需要が伸び悩み、料金収入の増加が期待できない状況となっている一方、昭和 30 年代～40 年代の高度経済成長期に整備された水道施設の老朽化が進んでいます。
- 小牧市における平成 19（2007）年度以降の年間配水量の推移をみると、平成 19（2007）年度の 2,138 万 m³をピークに減少傾向となっています。その主な原因としては、いわゆるリーマンショックを契機とした平成 20（2008）年度以降の深刻な不況の影響などが考えられます。
- 東海地震や東南海・南海地震などの巨大地震発生の切迫性が指摘されている中、震災等の非常時においても被害の発生を抑制し、影響を極力小さくすることができるよう、耐震管によるループ化や老朽管の更新を計画的かつ効率的に推進していく必要があります。

○このような厳しい環境の中で、事業の健全性を維持し、今後も引き続き、安全で安心な水道水を維持していくためには、長期的な水需要の減少に伴う給水収益の減少や老朽施設の修繕、更新に要する費用の増加などが見込まれることから、より一層の経営効率化を進め、収益性の確保を図り、水道事業を安定的に経営する必要があります。

~~○水道水需要量を安定的に確保するためには、今後も引き続き、安全で安心な水道水を維持するとともに、水道水は安全・安心でおいしく、安価であることをPRすることも必要な取組といえます。~~

◆基本施策の目的及び体系

市民の暮らしや企業活動を支えるため、将来にわたって安全で安心な水道水を安定的に供給します。

基本施策 24 上水道

展開方向 1 安全でおいしい水を供給します

展開方向 2 いつでも安定的に水を供給します

展開方向 3 健全な経営を持続します

◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
突発的な漏水事故により断水した件数	件	老朽化した水道管の破損による断水を伴う修繕工事件数	●	●
安全でおいしい水と感じる市民の割合	%	「小牧市の水は安全でおいしいと思う」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●

◆基本施策の展開方向 1：安全でおいしい水を供給します

【目的】

○市民や事業者が水道水を常に安心して使用できるようにします。

【手段】

①適切な水質管理により、国が定めた水道の水質基準を十分に満たし続けます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
水質基準不適合率	%	水質基準不適合回数／全検査回数 ×100	●	●

◆基本施策の展開方向 2：いつでも安定的に水を供給します

【目的】

○地震などの災害時の被害の抑制と影響の最小化及び経年劣化した水道管の漏水対策により水道水の安定供給を確保します。

【手段】

- ①耐震管による主要幹線管路のループ化を推進します。
②配水管を耐震管へ計画的に更新します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
主要幹線管路の耐震管によるループ化率	%	中心市街地及び外周の主要幹線 27.6km を耐震管でループ化した進 捗率	●	●
配水管の耐震化率	%	耐震化した配水管／総配水管延長 ×100	●	●

◆基本施策の展開方向 3：健全な経営を持続します

【目的】

○将来にわたり安定した事業運営を展開します。

【手段】

- ①経費の縮減に努めるとともに、水道料金の収納率を向上させを図ります。
②職員がコスト意識を持ち、能率的・合理的に施設・設備の適正な保守・運営に取り組みます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
水道料金の収納率	%	収納額／調定額×100	●	●
経常収支比率	%	{(営業収支＋営業外収支)／(営 業費用＋営業外費用)}×100	●	●

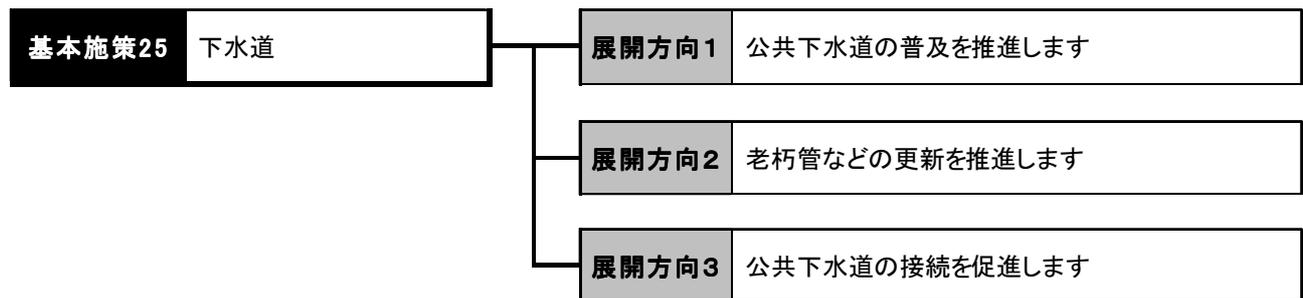
基本施策 25 下水道

◆現況と課題

- 我が国では、道路や上水道と同様に下水道についても、その多くが昭和 30 年代～40 年代の高度経済成長期から整備されており、現在、全国の各市町村では、管きよの点検・調査、改築など、下水道施設の老朽化対策をいかに計画的かつ効率的に推進していくのかが極めて重要な政策課題の 1 つとなっています。
- 小牧市における平成 24 (2012) 年度末現在、の下水道の供用開始区域内人口を住民基本台帳人口で除した公共下水道普及率は 70.1%、小牧市においても、**不明水の原因の 1 つである**下水道施設の老朽化が進行する一方、地域による人口の偏在が懸念されます。このため、将来的な人口動向など各地区の状況を十分に踏まえながら、従来にも増して下水道施設の計画的かつ効率的な整備を推進する必要があります。

◆基本施策の目的及び体系

河川や水路などの公共用水域の水質保全を図り、良好な都市環境及び水環境を創出し、市民の衛生的で快適な生活環境を確保します。



◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
公共下水道接続率	%	供用開始区域内下水道接続人口 / 行政区域内人口 × 100	●	●

◆基本施策の展開方向 1 : 公共下水道の普及を推進します

【目的】

- 衛生的で快適な生活環境を確保します。

【手段】

- ①公共下水道の計画的整備を推進します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
公共下水道普及率	%	供用開始区域内人口 / 行政区域内人口 × 100	●	●

◆基本施策の展開方向 2 : 老朽管などの更新を推進します

【目的】

○既存の下水道施設が有する機能の維持・向上を図ります。

【手段】

①耐用年数が経過した老朽管などの更新作業を推進します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
不明水率	%	(五条川左岸浄化センターへの流入汚水量 - 下水道料金徴収の対象となった汚水量) / 五条川左岸浄化センターへの流入汚水量 × 100	●	●
下水道施設故障件数	件	同左	●	●

◆基本施策の展開方向 3 : 公共下水道への接続を促進します

【目的】

○公共下水道への接続を促進します。

【手段】

①事業説明会などの開催や未接続世帯への訪問し、下水道接続を促します。普及促進を図ります。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
公共下水道の水洗化率	%	供用開始区域内下水道接続人口 / 供用開始区域内人口 × 100	●	●

基本施策 26 河川・水路

◆**現況と課題**

- 近年の水害による被害の実態をみると、河川改修の進展に伴い一定の安全度が確保される一方で、低平地の市街化や資産集積によって被害発生の可能性が高まっています。さらに、短時間での記録的豪雨の発生や、年ごとに少雨と多雨の変動幅が広がるなど、災害の危険性は年々高まっていると考えられます。
- 愛知県では、厳しい財政状況の中で、行政による河川改修などのハード整備が遅々として進展しないこと、また、**整備基準を超える雨量であるため**従来の河川整備では対応し難い昨今の異常気象の多発化を踏まえ、平成 22 (2010) 年 2 月より、住民自らが自身を守ること、地域全体で助け合うことなど、水害への心構えを育てるため、「みずから守るプログラム～大雨が降ったら～」と銘打ったソフト対策を推進しています。
- いつ起きるのか分からない大雨による浸水被害を最小限に抑制するため、個人・家庭でできることは個人・家庭が行う「自助」、個人・家庭でできないことは地域でお互いに助け合って行う「共助」、個人・家庭・地域ではできないことは行政が担う「公助」を適切に組み合わせながら、水害に強いまちづくりを推進する必要があります。

◆**基本施策の目的及び体系**

水害が起こりにくく、また、水害が発生した場合でも、その被害を最小限に抑制し、市民の貴重な生命と財産を守ります。

基本施策 26 河川・水路

展開方向 1 浸水区域の解消などを図ります

展開方向 2 河川への雨水流出を抑制します

◆**基本施策の進捗状況を測定するための指標**

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
床上浸水の被害戸数	戸	市内床上浸水の被害戸数	●	●

◆**基本施策の展開方向 1：浸水区域の解消などを図ります**

【目的】

- 河川施設を整備し浸水区域の解消を図ります。

【手段】

- ①降雨を速やかに流下・排出できるよう、既存の河川水路及び排水施設の機能を良好な状態に保ちます。
- ②「新川圏域河川整備計画²」に基づき、県管理の河川に流入する準用河川³及び排水路の整備を行ないます。
- ③浸水想定地区における内水排除及び浸水被害の軽減に向け、雨水排水施設の整備を推進します。
- ④市民が各戸で行う浸水防止のための塀の新設・増設などに対する費用を助成します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
排水ポンプ場処理流域における床上、床下浸水の被害戸数	件	同左	●	●
床上、床下浸水の被害戸数	件	市内での床上、床下浸水の被害戸数	●	●

◆基本施策の展開方向 2：河川への雨水流出を抑制します

【目的】

- 河川への雨水の流出を抑制し、広域的な河川のはんらんの防止を図ります。

【手段】

- ①公共施設における既存の雨水貯留施設を良好な状態に保つとともに、新たな雨水貯留施設の設置を推進します。
- ②市民が各戸で行う雨水貯留槽の設置に対する費用を助成します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
雨水貯留率	%	当該年度までの設置雨水貯留総量/ 「新川流域水害対策計画」に基づく 計画雨水貯留量×100	●	●

² 愛知県が新川流域において、今後概ね 30 年間で実施する河川整備等の内容を定めた計画。

³ 市町村長が指定し管理する河川。

基本施策 27 公園・緑地・緑道

◆現況と課題

- 現在、地球規模での環境問題がますます深刻化し、二酸化炭素の抑制や生物多様性の確保などの対策強化が求められています。このような状況下、その対応策の1つとして、都市における緑の保全・創出を図るため、近年、国により、都市緑地法をはじめ、緑に関わる様々な法律や制度の改正、新設がなされています。
- 愛知県は、平成 23 (2011) 年 11 月に広域的な緑のあり方や緑づくりの方針、具体的な施策やリーディングプロジェクト、将来目標を定めた「愛知県広域緑地計画」を策定しています。本計画では、小牧市の北東部に広がる丘陵地が「尾張北東部里山ゾーン」として、自然環境との共生、里地・里山の保全・再生など、広域的にも重要な緑地に位置付けられています。
- 小牧市では、平成 24 (2012) 年 3 月に本市における緑とオープンスペースに関する総合的な計画として「小牧市緑の基本計画」を改定しています。本計画では、「公園・緑地の質を高め使いやすくする」「市民の緑化活動の輪を広げる」ことなどを施策の柱に掲げています。
- 少子高齢化・人口減少社会などの社会経済状況の変化を踏まえ、今後、小牧市においても、従来のように公園・緑地の量を増やすことだけではなく、既存の公園などの改修にあわせ、市民との連携・協力のもと、だれもが利用しやすいものとなるよう、改善に取り組んでいます。
- 公園のニーズが地域により多種多様化してきていることから、地域の実情に沿った公園の管理や使用に関するルールを作る必要があります。

◆基本施策の目的及び体系

市民がより多くの緑と身近にふれあい、うるおいや安らぎを感じることができる、緑豊かな美しいまちを創造します。

基本施策 27 公園・緑地・緑道

展開方向 1 緑化意識を高めます

展開方向 2 安全・快適な公園を維持します

展開方向 3 公園・緑地・緑道の整備を推進します

◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
緑が豊かなまちであると感じる市民の割合	%	「小牧市は緑が豊かなまちであると思う」と回答した市民の割合(市民アンケート調査)	●	●

緑の創出面積	m ²	緑化助成や公園・緑地・緑道の整備により創出された緑地の面積	●	●
--------	----------------	-------------------------------	---	---

◆基本施策の展開方向 1 : 緑化意識を高めます

【目的】

○市民の緑化意識を高め、緑化の創出を推進します。

【手段】

- ①小牧市緑化推進協議会⁴において、その会員によるグループ（5人以上）緑化活動に助成するなど活動内容を充実します。
- ②一定規模以上の民有地の緑化事業を対象に経費の一部を補助する「緑化助成制度」を広くPRし、同制度の活用を促進します。
- ③バラ・アジサイまつりなどのイベントの折に、緑化に関するPRなどを行います。~~市民の緑化意識の高揚を図ります。~~

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
家庭などで花や木を育てている市民の割合	%	「家庭などで花や木を育てていますか」と回答した市民の割合	●	●
緑化推進協議会グループ活動数	人	小牧市緑化推進協議会緑化推進活動助成金の交付団体の参加人数	●	●

◆基本施策の展開方向 2 : 安全・快適な公園を維持します

【目的】

○安全で快適な地域ニーズに合った公園を、地域住民が主体となり維持管理する仕組みづくりと、市民四季の森をはじめとした大規模公園の適切な維持管理を進めます。

【手段】

- ①市民との協働による公園の維持・管理を推進します。
- ②~~公園台帳を適正に管理し、公園施設長寿命化計画などに基づき~~、老朽化した施設の補修・更新を行い、~~公園台帳を適正に管理し、公園施設の維持・管理に努め~~ます。

⁴ 自然の保護、環境緑化の推進を図り、緑とやすらぎのある美しいまちの建設に寄与することを目的とした組織であり、平成 24（2012）年度末現在、小牧市内にお住まいの方を中心に、個人会員 977 名、法人会員 44 団体が加盟。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
市民協働による公園管理数	件	公園の利用ルールを市民との協働により策定した公園数	●	●
市民四季の森が適切に管理された魅力的な公園だと思う来場者の割合	%	バラ・アジサイまつり来場者アンケート	●	●

◆基本施策の展開方向 3 : 公園・緑地・緑道の整備を推進します

【目的】

○公園・緑地・緑道の整備を推進し、市民が身近に緑とふれあえる場をつくります。

【手段】

①市民の利用ニーズを踏まえながら、地域に根ざした公園・緑地・緑道の整備を推進します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
市民 1 人当たりの都市公園面積	m ² /人	同左	●	●

基本施策 28 住宅

◆現況と課題

- 我が国では、平成 18（2006）年 6 月に「住生活基本法」が施行され、これまでの住宅の量の確保を図る政策から、住宅セーフティネットを確保しつつ、健全な市街地を整備するとともに、国民の住生活の質の向上を図る政策へと大きな転換が図られました。
- 小牧市では、平成 14（2002）年度から県との連携のもと、昭和 56（1981）年 5 月 31 日以前に着工された木造住宅を対象に、無料で耐震診断を受けることができる「民間木造住宅耐震診断事業」を、さらに、耐震診断の結果、「倒壊の危険有り」「やや危険」と診断された木造住宅を耐震改修する場合、その費用を補助する「耐震改修補助金制度」を実施しています。
- 住宅の質の向上を図るため、今後も引き続き、耐震化やアスベストの除却などを促進し、安全・安心で環境に配慮した良質な住宅ストックの形成を誘導する必要があります。また、高齢化や社会経済状況の変化などに伴い、今後増加する可能性がある住宅確保要配慮者が安心して暮らし続けることができるよう、市営住宅などの既存ストックを有効活用する必要があります。

◆基本施策の目的及び体系

市民が安全・安心で長く使い続けられる良質な住宅ストックの形成を図ります。

基本施策 28 住宅

展開方向 1 安全・安心で良好な住宅・住環境の整備を推進します

展開方向 2 適正に市営住宅を管理・運営します

◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
現在、居住している住まいが安全・安心だと思う人の割合	%	「現在、居住している住まいが安全で安心だと思う」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●

◆基本施策の展開方向 1：安全・安心で良好な住宅・住環境の整備を推進します

【目的】

- 安全・安心で災害に強い良質な住宅ストックの形成を図ります。

【手段】

- ①民間木造住宅の耐震化や減災化を促進します。
- ②民間建築物の建材に使用されている吹き付けアスベストの除却を促進します。
- ③長期優良住宅認定制度⁵の利用を促進します。

⁵ 長期にわたり良好な状態で使用するための措置が、その構造及び設備について講じられた優良な住宅。県または市から認定を受けると、様々な税制優遇が適用される。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
耐震性がないと判断された民間木造住宅のうち、耐震改修した住宅の割合	%	耐震改修した民間木造住宅戸数／耐震診断の結果、所要の耐震性能がないと判定された民間木造住宅戸数	●	●
市の補助を受け、アスベストの除却工事を行った民間建築物の件数	件	同左	●	●
新築住宅棟数に対する長期優良住宅認定制度の認定を受けた住宅棟数の割合	%	長期優良住宅の認定を受け住宅棟数/新築住宅棟数	●	●

◆基本施策の展開方向 2：適正に市営住宅を管理・運営します

【目的】

○高齢化や社会経済状況などの変化に対応できる市営住宅の管理・運営を進めます。

【手段】

- ①既存の市営住宅の適正な維持・修繕を実施します。
- ②住まいを確保しにくい高齢者、障がい者、子育て世帯等の福祉世帯の住戸を確保します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
市営住宅の入居率	%	1 年間空き家状態以外の戸数／全戸数 (92 戸) ×100	●	●
福祉世帯の入居率	%	福祉世帯の戸数／全戸数 (92 戸) ×100	●	●